山口県中学校弓道競技規則

1 競技の種目と規格

- (1) 種目 近 的
- (2) 的 震的又は星的 直径36cm 射程28m
- (3) 射数 8射・10射又は12射 試合によっては増減を考える。
- (4) 選手の数 3名又は5名とする。但し、1名足りなくても団体として認める。

2 競技の方法

- (1) 競技は団体競技及び個人競技とする。
- (2) 団体競技は、次の形式で行う。
 - イ. 2組以上の団体が、同人数・同射数で競技する。
 - ロ. リーグ戦又はトーナメント戦の形式をとる。
- (3) 個人競技は、団体競技に参加する者はその個人的中数、個人競技に出場する者はその的中数を以て、これにあてる。

3 順位の決め方

的中数により決める。但し、同中の場合は、次の方法により決める。

- (1) 団体競技
 - ① 優勝決定戦の場合、各組とも全員により、1本あて競射を行う。同中の場合は、再度行い的中数の多い組を勝ちとする。2回目も同中の場合は勝敗が決まるまで、全員による1本あて競射を繰り返す。
 - ② 2位・3位決定戦の場合、各組とも全員により、1本あて競射を行う。同中の場合は、再度行い的中数の多い組を勝ちとする。

但し、2回1本競射を行って同中の場合は、それぞれの組より代表1名を選出し、1本競射を行う。

代表による1本競射を2回行っても決まらないときは、遠近法により、的の中心に近いものを勝ちとする。
- (2) 個人競技
 - ① 優勝決定戦の場合、勝敗が決まるまで、射詰競射を繰り返し行う。
 - ② 2位・3位決定戦の場合、遠近法により、的の中心に近いものを勝ちとする。

4 競技上の一般規定

- (1) 特に定めた場合の他は、団体競技には所定数の選手の他、1名の補欠を認め、変更することができる。

但し、変更は選手対選手であって、立順の変更は認めない。

なお、変更は試合開始前までとする。
- (2) 競技の場合の選手の1回の矢数は2本又は4本とする。
- (3) 次の場合の矢は無効とする。
 - ① 矢番え完了後に、筈こぼれし、又その他の事由で引き直した矢。矢番え完了とは、矢をつがえた後、右手に腰をとった時点をいう。筈こぼれとは筈が弦から離れることをいう。
 - ② 同一射場において前の射手より先にはなした矢。ただし同時打ち起こしの場合を除く。

- (4) 競技中は、順次射を行い、空費(時間)はいけない。
前にいる競技者が「会」に入れば、次は者は取懸けて「打起」に入ること。
- (5) 女子は、胸あてを使用すること。
- (6) 服装は、男子は下はズボン又はトレーニングパンツ、上は体操シャツ
女子は下はスカート又はトレーニングパンツ、上は体操シャツ
また、男女とも道着及び袴を着用してもよい。

5 競技審判に関する規定

- (1) 競技には、審判員をおく。
- (2) 審判員は、主審1名・副審2名又は4名をもって構成し、同時に審判にあたる。
- (3) 審判は、全日本弓道連盟弓道競技規則及び本競技規則に基づき、これを行う。
- (4) 審判員の裁定には、必ず服さなければならない。
- (5) 次の事項に該当する者は失格とする。
 - イ. 審判の裁定に服さない者
 - ロ. 指定の時刻に出場しない者
 - ハ. 競技及びその進行・会場の整理などに妨害、支障をきたした者
 - ニ. その他競技規則に反した者

6 「あたり」「はずれ」に関する規定

- (1) 次の事項に該当する矢は「あたり」とする。
 - イ. 標的に矢があたり、留まっている場合
 - ロ. 矢があたって、的を突き抜け、安土に深く入り、その矢が的の面に見えない場合
 - ハ. 矢があたって折れ、矢の根のある方が的の内側にある場合
 - ニ. 矢が的輪の合せ目に立った場合
 - ホ. 矢が的にあたっている矢にくいこんだ場合
 - ヘ. 矢が的輪の内側からの的枠の外に射貫いた場合
 - ト. 矢があたっての的が転び、その矢が的についている場合
 - チ. あたった矢が地面についている場合
- (2) 次の事項に該当する矢は「はずれ」とする。
 - イ. 的に矢があたらない場合
 - ロ. 矢がごう串に立った場合
 - ハ. はきあたり (矢が地面をすべってあたる場合)
 - ニ. 矢が的輪の外側からの的枠を射貫いた場合
 - ホ. 矢が地面にあるあたり矢を射てはねかえった場合

[備考] S. 59. 7 浅原先生により旧規則の見直しを上田登一先生の指示を受けて作成する。

H. 7. 7 改訂

H. 15. 5 改訂

H. 26. 4 (3(1)① の文章表現を修正)

H. 28. 7 改訂